

# 認定NPO法人ぐるーぶ藤

## 第10回(通算第22回)通常総会議案書

日 時 : 2014年5月25日(日)

10:30~14:00

場 所 : オザワビル

# 総 会 次 第

1. 開 会

2. 理事長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 資格審査

6. 議事審議

第1号議案 事業報告

第2号議案 決算報告および監査報告

第3号議案 役員改選

7. 報告

事業計画および事業予算

8. 永年勤続表彰

9. 閉 会

# はじめに

市民参加の街づくりの活動を始め23年目に入りました。この間一貫して地域福祉にこだわり、藤沢を福祉豊かな街にしたいと願い活動してきました。昨年末には認定NPOとなり『ぐるーぷ藤』の地域での役割は更に増してきました。

2025年に迎える三人に一人が高齢者になる社会を見据え、来年には介護保険法が改正されます。それに合わせ、要支援1,2の人達が地域支援事業に移行するため、今年はその準備期間の年と云えます。可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活するため、地域包括システムを推進すると共に、市民が市民を支える地域体制づくり「地域支えあいセンター（よろしく・まるだい）」の運営にも力を注ぎます。コーディネーターを配置し有償ボランティアを中心に様々なニーズに対応し、人と人を繋げ必要なサービスを作っていきます。地域包括支援センターや民生委員等と協力し合いながら、藤沢らしい市民参加の輪を広げて行きます。「地域支えあいセンター（よろしく・まるだい）」の運営は私たちがずっと目指してきた活動とも云えます。この事により更に助け合いの仕組みづくりが網の目のように広がり市民の安心・安全な街づくりを推し進めて行きます。

また認定NPOとしての自覚を持ち、その地域貢献の一つとして本来事業の中の子育て支援を一年間ワンコインで行っていきます。若いお母さんが安心して藤沢で子育てが出来るよう支援し、この事が少子化対応の一助になればと思っております。

## 第1号議案

### 2013年度事業報告

#### 1. 組織運営

福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」は今年も地元藤が岡の地に根づく活動ができました。大勢いる地元のスタッフの様々なご縁からどんぐり園はじめ地元自治会・学童保育・中学校などとの交流が頻繁に行われ休日にはスタッフの子どもたちがボランティアとして来館することなどが定着してきました。

ぐるーぷ藤では、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げていますが、今年度も多くのスタッフが部門を越えて活躍しました。

4月にはぐるーぷ藤の活動に賛同し資金面から支える新たな仕組みとして擬似私募債「第1回ぐるーぷ藤・藤が岡債」を発行しました。藤が岡債の募集にあたっては締切日前に募集額（9,950万円）に達し、一部の方々には断わらざるを得ませんでした。あらためて賛同して下さる方々の熱意を感じました。

今年度は12月25日念願の神奈川県による「認定特定非営利活動法人」の認証を受けました。認定取得の条件の一つとして3,000円以上の寄付者が2年間で200名以上いることでしたが、会員はじめご利用者や藤の活動を支援して下さる方々325名から総額800万円を超える寄付をいただきました。神奈川県の前相談では様々な指摘を受け、認定取得の難しさに直面しましたが一つ一つ課題を解決し藤沢市市民自治推進課の協力も得、目標としていた12月中の取得が実現しました。

運営については、年4回の理事会で予算をはじめ事業運営に関する重要事項の検討を行い、必要に応じて開催した運営会議で随時新たな課題についての検討を重ねました。内部理事及び各事業部門の代表で構成された部門代表会議を年19回開催し、理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。全会員に対し月1回の運営報告会で運営状況の報告を行い情報の共有を図りました。また部門ごとに会議や担当者ミーティングを持ちそれぞれの課題を話し合うとともに、研修の場となるように努めました。部門の枠をこえた委員会活動やプロジェクトは、さまざまな形で会員が運営に参加する機会になりました。

本年度は一番館設立後、トップリーダー研修として初めて全管理者参加のもと学習会を行い、創立以来の理念を再確認しました。

#### 2. 事業・活動部門

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」を拠点にして地域に根ざしたさまざまな活動

が出来ました。部門間の連携を密にしご利用者の多様なニーズにできるだけ柔軟に対応しました。また地域で入居を待っている障がいのある方々のために新たに自立支援型グループホームを本藤沢に開設しました。本年2月には障がいがある方の自立した生活を支え、その抱える問題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントを行うために、障がい相談支援事業所「計画サポートぐる一ぶ藤」を開設しました。

また火災・震災等の予防及び安全確保のため防災委員会を設置し、各部門の備蓄品の確認を行いました。今後防災マニュアルを作成し非常時に備えます。

レストラン「オハナ」は、食事の場だけでなく地域の交流の場、憩いの場としても多くの方にご利用いただきました。ぐる一ぶ藤のシンボルとしてゆっくりとくつろげる集いの場として定着しました。

## 2-1 訪問介護事業（ぐる一ぶ藤ホームヘルプ）

ご利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくために心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えました。

本来事業では長年支援を続けてきたご利用者が逝去され、ご家族の介護に最後まで寄り添った事に対して感謝していただきました。さまざまな依頼に対応して、ほんとうに困っていらっしゃるご利用者に支援できたことでホームヘルプの原点を再認識できた1年でもありました。

介護保険では他事業所のケアマネジャーからの依頼を積極的に受けて活動範囲は広がりましたが、調整の難しいケースも多くありました。在宅生活を希望されるご利用者の要望に介護保険制度の中で応えることの難しさを感じました。

障がい者総合支援法では、今年度同行援護と行動援護の指定を秋に受けました。それに伴い、今年度サービス提供責任者2名が研修を受講しました。一昨年より行ってきた喀痰吸引登録特定行為については、24時間対応のご家族の介護負担を軽減することができました。

認定NPO取得後の「ワンコイン」での子育て支援では、産前産後1ヶ月から1年へ延長することができ、子育て中の母親の安心につながりとても喜ばれました。

事業所加算Ⅱを取得した事業所として関係機関からの困難なケース依頼にも積極的に対応し多様な利用依頼に出来る限り応える努力を行いました。昨年に引き続き対人援助の基本である訪問介護の介護力アップとヘルパーの資質向上のため、ケアの基本を会議、研修等で常に確認しました。その方らしい在宅生活を支えるために、きめ細かい介護力に対応することのできる事業所を目指して日々努力しました。

## 2-2 通所介護事業（デイハウス菜の花）

ゲストのご家族より提供を受けた菜の花は、鶴沼海岸の閑静な住宅地にあります。室内からは庭が見渡せ、四季折々の花や野鳥が飛んで来る様子等が観賞

できゲストや来訪者の目を楽しませてくれます。夏には梅の実がたくさん生り、皆様と梅ジュースをつくることができました。

2年前から取り入れた認知機能の低下を防止する学習療法が定着して、ご利用者も積極的に取り組まれました。その結果集中力も増して、計算問題を解く時間がはるかに速くなってきました。記憶力テストもゲーム感覚で楽しみながら覚えることができています。心身機能低下予防の為に左右異運動も継続しています。作品づくりでは創意工夫した玄関の飾りつけや、難しいクリスマスリースに挑戦して、見学に来られた方やご家族から絶賛の声をいただきました。

スタッフはゲスト一人ひとりに（目配り・気配り・心配り）をして状態を把握し、個性を大切にサービスにつとめました。

### 2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

ご利用者に対しきめ細かいアセスメントを行い、自立支援をめざした公正中立なケアプランを作成しました。ご利用者の状況の変化やサービスが適切であるか定期的にモニタリングを行い、ケアマネミーティングでの事例検討を通してスキルアップを継続して行いました。

同一法人内に多種事業所をもつという利点を生かし、ご利用者やご家族の状況の変化に合わせて、小規模多機能型居宅介護藤の花、複合型サービスしがらきの湯へまた小規模多機能等から在宅へと臨機応変につなぐことができました。

認知症や一人暮らしの方達が住み慣れた地域で暮らせるように、包括支援センターや民生委員との連携や地域資源の活用を積極的に行い、藤が岡地区の高齢者のための地域づくりのひとつとして、緊急時に活用できるようにご利用者・地域の病院・包括支援センターを掲載した地域マップを作成しました。

### 2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

「通い」「泊り」「訪問」を組み合わせ、ご利用者・ご家族の多様なニーズにきめ細かく対応し、安心して在宅生活ができるように支援しました。緊急時はいつでも対応できるようにスタッフ体制を組みました。

ご利用者の意欲を引きだし生きがいを見いだす週2回の「おでかけデイ」は大変評判がよく、湘南のすばらしい自然や心落ち着く鎌倉の寺巡り等、悪天候時は美術館やカラオケ等屋内で楽しめる場所に行きました。さらに鮎の解体ショーや餅つき大会のイベントを開催し、ご家族や運営推進委員の方々にもお声掛けしました。第1回家族会は新施設の内覧とご家族同士の意見交換、悩み相談等交流が出来ました。複合型サービスと年6回共同開催している運営推進会議は、ご家族・自治会・民生委員・地域包括支援センター・市介護保険課と情報交換や事例検討で連携しました。

湘南平塚看護専門学校の依頼で在宅看護論実習Ⅰにのべ26名の学生を受け入れ、地域密着型サービスとしての役割、在宅支援を学んでいただきました。

「大鋸の福祉の駆け込み寺」としては自治会に入り大雪の時は近隣の方々と

言葉を交わしながら雪かきをし、着実に地域に周知されつつありますが、より一層交流を深めていくことが今後の課題です。

#### 2-5 複合型サービス（ぐるーぷ藤しがらきの湯）

「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」を組み合わせ、介護士、看護師が協働し医療依存度の高い方も住み慣れた自宅で過ごせるよう支援しました。看護師がいるという事がご家族の安心や介護負担の軽減につながりました。

地域交流は、介護度が高く外出が難しい方が多くなり、少人数での外出や地域の方々に来て頂くようになりました。以前より行っているどんぐり園との交流は季節の行事にお呼びしたり、運動会では特別に競技を用意して頂き楽しみました。お祭りやお餅つきなどの自治会の行事にも積極的に参加しました。定期的なハモニカ演奏、音楽レクリエーションや、新しく始まった二胡の演奏などたくさんの地域ボランティアが来てくださり、地域との関わりが深まりました。

スタッフが研修を受け、喀痰吸引登録事業所という県の指定を受け、痰の吸引の必要な方、胃ろうの方の受け入れ態勢を整えました。インスリン注射等訪問看護を必要とされる方の利用も増え、介護士と看護師が同時に伺うことが出来る複合型らしい訪問も始まりました。介護福祉士試験に毎年合格し、スタッフの6割が介護福祉士となりました。スキルアップ研修などでさらに技術を磨き、医療依存度の高い方の在宅生活を支えるお手伝いをする事が出来ました。

複合型サービスが新しい制度であり、そのシステム作りの為、厚生労働省による看護師の実態調査「医療職のあり方に関する調査」に協力しました。

#### 2-6 訪問看護（訪問看護ぐるーぷ藤）

住み慣れた家で安心して暮らしていきたいというご利用者の思いやそれぞれの価値観での生活を大切にし、一人ひとりに合った看護サービスの提供を心がけました。主治医やケアマネジャー、ヘルパーなどとの連携を大切にし、主体となるご利用者やご家族が自分なりの在宅生活を継続していけるようセルフケア能力の向上を重視し、QOLの確保を大切に考えてきました。予防的看護や医師の指示による医療処置、ターミナルケアまでニーズに沿った幅広い看護を提供しました。

時にはご家族の相談にのりより良い療養生活の提案を行い、医療関係の調整もはかるなど心身両面からの援助も心がけ実践しました。またいつでも安心してお過ごしいただけるよう24時間携帯電話を持ち、緊急時の夜間対応にも丁寧に対応しました。

複合型サービスにおいては、通いや泊まりではスタッフの一員として医療的処置などの対応にあたり訪問を必要とされる方には訪問看護も行ない、なじみの関係を築く事が出来るようになってきました。

また、一番館にお住まいの方の健康相談にも応じ働くスタッフからも気軽に様々な相談を受けています。

## 2-7 障がいグループホーム

### (藤が岡の家)

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、世話人中心に日常生活をサポートするとともに、看護師始め他のスタッフの暖かい声かけや見守りを通して安心の暮らしを提供しました。

開設から7年目を迎え、4名のメンバーが4月新設のグループホーム本藤沢の家に転居し、自立生活にむけて一歩進むことができました。その後、新しいメンバーを迎え、精神障がいだけでなく知的障がいの方も共に暮らすグループホームとなりました。

地域の作業所や病院、行政機関と協力をしながら、メンバーそれぞれの出来ることを共に発見し、生活の技術の向上や活動の場の広がり、グループホームでの自立生活の定着へと関係を作りつつあります。

毎年参加している地域のお祭りでは初めてのメンバーが多く、藤が岡の家卒業生も特別参加しておおいに楽しみました。

### (本藤沢の家)

4月15日新たに本藤沢に定員11名の自立型グループホームを開設しました。アパート形式で全室独立して日常生活ができる機能をもち、夕食を提供する共有スペースでメンバー間の交流を図っています。メンバーは、20歳から55歳までの幅広い年代で、一般企業に就労する方、作業所、デイケアに通所する方と日中は様々な活動をしています。

毎週土曜日は料理サークルのメンバーが集まり、カレーや餃子などの夕食を作ることで、自立のための訓練や楽しみながらコミュニケーションをとる活動をしています。また月に1回の手芸サークル「けいと玉」の活動拠点となり、メンバーだけでなく外部のボランティアとの会話の機会を提供しています。

新たな入居希望者からの相談が途切れることなく、障がいを持ちながら地域の中で安心して暮らせる場として障がいグループホームの役割は重要になってきています。

## 2-8 障がい相談支援事業（計画サポート ぐるーぷ藤）

障がいがあっても地域で自分らしく暮らし続けていくために、障害福祉サービスを中心に様々な制度やサービス、社会資源を調整し利用者と協働してその方の生活を支えていく指定特定計画相談支援事業所・計画サポートぐるーぷ藤を2月1日開設しました。

同一法人内に障がい居宅介護事業、精神障がいを中心としたグループホーム



を持っていることから、その経験を生かしてまずは関係者からの依頼を優先してプラン作りを開始しました。

### 2-9 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

おもてなしの心を大切に、お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただけるように努めました。また、「終の棲家」として自分らしく一番館で最期を迎えたいという気持ちを尊重し、その時を迎えるまで家族と共に寄り添うことが出来ました。看護師による個別の健康相談を充実させ、健康診断や訪問診療を通し主治医とのコミュニケーションを密にし、入退院後の生活を不安なく送っていただけるよう対応してきました。皆様の高齢化が進み認知症や転倒などリスクを負う場面もあり、必要に応じて介護保険による複合型サービス・小規模多機能型居宅介護・ホームヘルプなどを利用しながら、一番館サービスとの組み合わせを考えケアを充実させました。

個別での対応が必要とされる中、少人数でのドライブや食事、季節の花見など外出したりリビングでの編み物やカルチャー・お鍋を囲んでの談話と皆様が今できる事を行いながら、スタッフと共に笑顔で過ごせるよう配慮しました。また、自治会行事に出席するなど地域社会への参加を積極的に支援しました。ソフト食・ミキサー食の方が多くなっているため、管理栄養士や厨房と協力し食事内容や食器を工夫することで毎日の食事を楽しんでいただけるように努めました。ご家族の年齢も高くなっており相談に応じ不安を取り除くなど精神的援助を行いました。

災害時にいつでも対応できるよう夜間避難訓練を中心に計画的に防災訓練を行い、AEDを含む救命救急講習に参加しスタッフの防災意識を高めていきました。

### 2-10 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では管理栄養士・調理師を配置し、食事のバランスを考えたメニュー作りを心掛けました。一番館にお住まいの方の胃腸食・ソフト食・ミキサー食の提供や食べやすい形の食器を工夫し、医療依存度の高い「しがらきの湯」の利用者のカロリー制限食やお持ち帰り弁当にも細かく対応しました。

楽しく召し上がって頂くために見た目の彩りや盛り付けの工夫、年間行事食の献立を充実させました。

レストラン「オハナ」では施設のシンボルとして寛いで頂ける雰囲気作りに努めました。地域の方の交流の場・憩いの場をめざしスタッフのサービス向上に努めました。

お客様の要望に応えたライトメニューや会員用のお弁当の販売も大変好評でした。今年度から始まったグループホーム「本藤沢の家」の夕食作りもスタッフ全員で現地を視察し、納品方法・梱包方法を考え安全で美味しい食事作りを

心掛けました。

### 2-1-1 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療に関するあらゆる相談に24時間応じています。

一番館の近所にお住いで「オハナ」の常連でもある高齢ご夫婦の状況の変化に気づき、すぐに担当ケアマネジャー、ご親族と連絡を取り話し合いの場を持ちました。

長年の経験を生かし緊急のSOSに対応するとともに、地域においては権利擁護の観点に立ち、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをするNPO版地域包括支援センターの役割を担っていると自負しています。

## 3. 管理部門

ぐる一ふ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、効率的に業務を遂行できるよう努めました。定款、労働基準法をはじめとする法令遵守を徹底するとともに、請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実に遂行しました。予算の執行にあたっては、人員配置・水道光熱費等すべてにおいて無駄を省き経費節減に努めました。

また認定NPOの申請に合わせ定款の一部を変更しました。さらに現行賃金体系・役員報酬・街づくり対策費については従来の基準を整理し、「給与規程」・「常勤役員報酬等支給規程」・「地域福祉活動を行うNPO法人等への支援基準」と規程化しました。

また労働安全衛生法に基づき、安全衛生委員会の設置・産業医の選任・衛生管理者の選任について検討し2014年4月1日より実施できる見込みとなりました。

### 3-1 会員（メンバー）と福利厚生

今年度も募集をしない中でメンバーの紹介により福祉のまちづくりの理念に賛同する仲間が8名増えました。一方で長年共に活動してきたメンバーの中には自ら卒業として退会する者もあり、現在会員は132名となりました。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆がいきいきと働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくりました。福利厚生の充実に努め今年度から感染症で出勤停止と診断された場合の休業補償を始めました。有給休暇の取得もさらに増え対象者の92%が取得しました。恒例の交流会では6月に日本料理を堪能し11月には陶芸体験とイタリアンを楽しみました。一番館で行った新年会では陶芸体験での作品を鑑賞しながら厨房手作りの料理に舌鼓を打ち会員による川柳大会やゲームを楽しみました。

### 福祉関連有資格者（2014年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー	1級：	3名
	2級：	97名
同行援護従事者		9名
ガイドヘルパー		27名
認定特定行為業務従事者		2名
介護福祉士		54名
保健師		1名
看護師		4名
准看護師		1名
介護支援専門員		8名
障がい相談支援従事者		3名
精神保健福祉士		2名
社会福祉士		2名
社会福祉主事		3名
福祉住環境コーディネーター		2名
認知症ケア専門士		1名
学習療法士1級		1名
管理栄養士		1名
栄養士		4名
調理師		6名
キャラバンメイト		3名
普通救命講習I修了者		76名

### 3-2 広報活動

年4回発行している広報誌「花どけい」は毎号特集記事を組みご利用者やご家族の寄稿もいただくなど内容の充実を図りました。巻頭に「理事長の外部活動」をあらたに掲載するなど紙面づくりの工夫を行いました。「花どけい」は他団体からの評価も高く見学者や訪問者には資料として活用し広報の役割を果たしています。ホームページにはタイムリーに情報をアップし内容を充実させました。

今年度もぐるーぷ藤の活動は各方面から注目されました。見学希望者の多くはスタッフの働き方、研修内容など運営に関するものに加え、地域との関わりを始めとする「まちづくり」への関心も高いように思えました。今年度は大学で市民自治を学ぶ学生たちの見学も多くなりました。

雑誌の取材申し込みも増え、長寿社会文化協会発行のコミュニティーカフェ紹介誌に県内45店舗に取り上げられ、オハナに関する取材もありました。

しがらきの湯では複合型サービスを皆さんに知って頂くため「小規模多機能居宅介護から複合型サービスへの転換」について、かながわ福祉サービス振興会のかながわ福祉大賞「福祉の未来を拓く先進事例」に応募し入賞しました。その後複合型サービス代表として取材を受け、写真とサービス説明がかながわ福祉サービス振興会のホームページにアップされました。また、複合型サービス公表制度の調査員に対し講師をつとめました。

見学の方や取材の方からは「オハナ」の予約もいただきランチを絶賛され、「オハナ」の広報としての位置づけも定着しました。

また認定NPO取得後、ぐるーぷ藤のロゴのデザイナー グッドデザインカンパニーの水野学氏より「認定」入りの新しいロゴを制作していただき、花どけいやホームページ、印刷物にも活用しています。

見学希望に対してはお住まいの方のプライバシー保護を考慮しながら対応し、現在半年先まで予約が入っています。

### 3-3 諸団体での役割

- ・ 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 常務理事
- ・ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度 レベル認定委員
- ・ 民間介護事業推進委員会 委員
- ・ 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・ 藤沢市市民活動推進委員会 委員
- ・ 藤沢市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 委員
- ・ 藤沢市住まいと暮らし連絡会 委員
- ・ 神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 委員
- ・ NPO法人昴の会 理事

### 4. 研修プロジェクト

ご利用者の多様なニーズにきめ細かく対応できるよう、メンバー一人ひとりに対し各部門で個別研修プログラムを設定し、『理念と意思の共有』『スキルアップ』『これからの介護について』を学びの3本柱とし、体系的な研修を組み立ててきました。また研修に参加し自己研さんを重ねたメンバーを適切に評価できるシステムをつくり、藤全体のスキルアップを図ってきました。今年度も内部、外部合わせて約170回の研修がありました。

理念の共有と継承のための「理事長と語る会」は、5回87名の参加を得ました。藤の生い立ち、藤の理念を再確認できました。また普段は会う機会の少ないメンバーの交流の場となり、有意義な研修となりました。

定着したスキルアップ研修も全6回開催し、毎年参加しているメンバーには日常的な基本介護技術の再確認となり、新しいメンバーにとっては技術を習得する貴重な機会となりました。恒例の三重大学准教授竹内佐智恵先生の「介護講

座」は21回目となり、今回も新しい介助方法を紹介していただきました。公開医療講座では、クローバーホスピタル皮膚科の門倉Dr.に「褥瘡について」をお話しいただき、入居者のご家族も参加されました。ボランティアすみれと共催で行った安部白道氏の講座「老い支度」では、地域から多くの参加がありました。また、藤沢市消防署村岡出張所の協力を得てAEDを使用した「救命救急講習会」も行いました。3名の消防士の指導の下28名のメンバーが受講しました。

毎年行っているトップリーダー海外研修では市民協主催のフランス研修に3名参加しました。フランス政府は少子化・就業対策を行うことで、高齢化問題を解決しようとして取り組んでいました。NPOも多くのボランティアがアクティビティを支えたり、一人暮らしの高齢者の不安や社会参加の為、若者と同居するシステムを作ったり、さまざまな活動を行っていました。個を大切にしながら、社会参加を促し、地域の活性化を図ることを学びました。

## 5. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。

今年度も様々な被災地支援を行いました。南三陸の防災センターで津波の犠牲になった遠藤未希さんのご家族が始めた民泊「未希の家」を5月から12月まで毎月2名が訪問しました。参加者は未希さんのお母様のストレスケアで癒され、手作りの食事を囲みながらご家族の揺れる思いに耳を傾け、復興がまだまだ進んでいないことを実感しました。また市民協と現地のNPOで共同開発した災害保存食の復興応援食品を購入する等、藤らしい支援を続けてきました。

また市民協を代表し、民間介護事業推進委員会の委員や内閣府の「キャリア段位制度」の段位認定委員として介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った発言をしてきました。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行ってきました。

※市民協：認定NPO法人市民福祉団体全国協議会

◇講師

- ・ 04/22 「ソーシャルイノベーション：コミュニティによる問題解決」  
(慶應義塾大学 金子ゼミ)
- ・ 05/12,13 「新潟NPO協会10周年フォーラム」(新潟NPO協会)
- ・ 05/21 「江戸川人生大学」(江戸川区)
- ・ 07/18 「地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修」講師
- ・ 11/14,15 「市民協コーディネーター研修」(市民協)
- ・ 11/22 「主婦たちがつくった理想の終の住処」(東村山市「ゆずりは」)
- ・ 12/03 「地域連携と都市再生」(横浜国立大学)
- ・ 01/08 「複合型サービスの概要」(かながわ福祉サービス振興会)
- ・ 01/11 「二代目リーダー養成塾」(市民協)
- ・ 01/15 「認知症サーポーター養成講座」(湘南国際アカデミー)
- ・ 02/23 「生活支援コーディネーター養成研修」(市民協)
- ・ 03/15 「どうなる介護保険」(片瀬地区福祉ボランティアしおさい)
- ・ 03/22 「虐待について」(NPO法人たすけあいスプーン)
- ・ 03/23 「今後の介護保険改定の行方と地域支援事業について」  
(地域ユニット伊勢原)

◇表彰

- ・ 11/15 かながわ福祉大賞奨励賞受賞「福祉の未来を拓く先進事例発表会」

◇審査員

- ・ 03/21 「公益的市民活動助成事業」藤沢市市民自治推進課

◇被災地訪問

- ・ 「花見山公園花見ツアー」4/20-4/21
- ・ 「未希の家」5/25-26、6/15-16、7/20-21、8/24-25、9/28-29、10/19-20、  
11/16-17、12/21-22

◇取材、見学等

- ・ 取 材 : 婦人之友 月刊ケアマネジメント シニアすまい塾  
長寿社会文化協会
- ・ 見 学 : 39件 109人
- ・ 雑誌掲載 : 「婦人之友6月号」  
「月刊ケアマネジメント9月号」  
「コミュニティカフェガイドブック」

# MEMO

## 第2号議案

# 2013年度決算報告書及び監査報告

2013年度 活動計算書  
2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金	額
<b>I 経常収益</b>		
1 受取入会金	9,000	
正社員入会金	19,000	28,000
2 受取会費	5,000	
藤さわ会員年会費	84,000	
賛助会員年会費	25,000	114,000
3 受取寄付金	683,369	
一般会員寄付金収入	1,482,000	2,165,369
4 受取助成金等	1,259,675	
公民的助成金収入	300,000	1,559,675
5 事業収益		310,848,463
6 その他収益	14,230	
受取利息収入	14,109,476	14,123,706
経常収益計		328,839,213
<b>II 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) 人件費	186,627,639	
給料手当等	1,347,746	
有償ボランティア	8,486,000	
賞与	2,687,945	
通勤交通費	20,325,890	
法定福利費	261,803	
厚生費計	219,737,023	
(2) その他経費	11,898,352	
食印刷材費	410,195	
会刷製本費	48,074	
事業費	1,573,620	
燃業費	977,018	
通燃料費	851,072	
消耗品費	3,806,041	
水道繕修費	594,340	
水道光熱費	8,015,691	
家賃支出	9,564,000	
賃減借費	3,811,606	
保価却料	18,377,046	
諸險會費	459,975	
租稅公課	39,600	
研修費	2,862,673	
支払手数料	219,920	
まちづくり対策	101,027	
被災地支援	477,511	
被支地	498,280	
支理諸	10,585,986	
管費	49,612	
雑費	468,590	
その他経費計	75,690,229	
事業費計		295,427,252





## 貸借対照表

2014年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金	65,798,099	
貯蔵品	674,098	
未収金	42,412,801	
前払金	5,903,808	
立替金	4,250	
流動資産 合計		114,793,056
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物	308,882,558	
建物附属設備	20,344,752	
構築物	543,438	
車両運搬具	831,066	
什器備品	3,923,564	
土地	166,519,448	
有形固定資産 計	501,044,826	
(2) 無形固定資産		
電話加入権	180,600	
ソフトウェア	850,094	
権利金	931,000	
無形固定資産 計	1,961,694	
(3) 投資その他の資産		
敷金	1,014,000	
保証金	1,847,000	
投資その他の資産 計	2,861,000	
固定資産 合計		505,867,520
資産 合計		620,660,576
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
未払金	19,876,805	
前受金	39,931,629	
預り金	314,450	
預り保証金	12,520,605	
仮受金	24,570	
流動負債 合計		72,668,059
2 固定負債		
長期借入金	299,687,000	
擬似私募債	99,500,000	
固定負債 合計		399,187,000
負債 合計		471,855,059
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		155,622,263
当期正味財産増減額		△ 6,816,746
正味財産 合計		148,805,517
負債及び正味財産 合計		620,660,576

財 産 目 録

2014年3月31日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現 金	現金手許有高	1,275,720	
普 通 預 金	横浜銀行 藤沢中央支店 3口座	64,522,379	
貯 蔵 品	ユニホーム、書籍 等	674,098	
未 収 金	利用料 等	42,412,801	
前 払 金	前払保険料、リサイクル預託金 等	5,903,808	
立 替 金	施設賠償責任保険立替	4,250	
流動資産 合計			114,793,056
2 固定資産			
建 物	一番館 藤が岡、内部造作 等	308,882,558	
建 物 附 属 設 備	電気設備 等	20,344,752	
構 築 物	一番館外構工事	543,438	
車 両 運 搬 具	ワゴンR3台、日産セレナ	831,066	
什 器 備 品	小規模藤の花設備 等	3,923,564	
土 地	一番館 藤が岡	166,519,448	
有形固定資産 計		501,044,826	
電 話 加 入 権		180,600	
ソ フ ト ウ ェ ア	介護ソフト	850,094	
権 利 金	山王プラザ賃貸契約礼金	931,000	
無形固定資産 計		1,961,694	
敷 金	藤が岡 駐車場3台 等	1,014,000	
保 証 金	山王プラザ保証金 等	1,847,000	
投資その他の資産 計		2,861,000	
固定資産 合計			505,867,520
資産 合計			620,660,576
II 負債の部			
1 流動負債			
未 払 金	3月分給料 等	19,876,805	
前 受 金	一番館入居者入居金 等	39,931,629	
預 り 金	源泉所得税等	314,450	
預 り 保 証 金	一番館入居者等預り保証金 等	12,520,605	
仮 受 金	レストランオハナ食事券	24,570	
流動資産 合計		流動負債合計	
		72,668,059	
2 固定負債			
長 期 借 入 金	横浜銀行設備資金借入2口	299,687,000	
擬 似 私 募 債	199口	99,500,000	
固定負債 合計		399,187,000	
負債 合計			471,855,059
正味財産			148,805,517

# 監 査 報 告 書

NPO法人ぐる一ぶ藤  
理事長 鷺尾 公子殿

下記の通り監査をいたしましたので、ご報告いたします。

## 記

- ・ 監査実施日 2014年5月12日
- ・ 立 会 人 理事長 鷺尾 公子、事務局長 吉村 さえ子、経理主任 富田 信美
- ・ 監査対象期間 2013年4月1日～2014年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

### 1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

### 2. 業務監査

理事長 鷺尾公子氏から2013年度事業に関する概要説明を受け、当該事業計画に沿って監査を実施しました。

- ・ 今年度特筆すべきは認定NPO法人の認証を受けたこと。ぐる一ぶ藤が福祉の街づくりという理念のもと、地域のニーズに応じて行ってきた事業活動と公正な組織運営が公益の増進に寄与すると認定されたことは高く評価いたします。
- ・ 2か所目の障害者グループホーム 自立支援型の「本藤沢の家」を開設し、年度末には障がい者相談事業所「計画サポート」を開設したことを評価いたします
- ・ 理事長が市民協の常務理事はじめ厚労省・内閣府等の委員を務める等さまざまな機会を通じて介護保険はじめ福祉全般に関して積極的に発信するとともに全国のNPO支援を惜しまぬ姿勢に敬意を表します。
- ・ 来年の介護保険改正に備えて実施される地域支えあいセンターのモデル事業は、ぐる一ぶ藤の原点でもありこれまでの活動の集約として、二番館建設とともに来年度大いに期待いたします。

2014年5月12日

監事 小野 淑子



監事 藤澤 抱一



## 第 3 号議案

### 役員改選について

定款第 11 条および 12 条による

# 報告

## 2014年度事業計画

### I. 事業方針

#### (1) 基本方針

年長いても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

#### (2) 運営方針

##### 1. 組織運営

認定NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。

理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する運営会議を月1～3回行います。そこでまとめられた提案事項について毎月開かれる部門代表会議で検討し、その後全メンバーを対象に運営報告会を開催し活動を共有します。またそれぞれの部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる等民主的な運営をめざします。

昨年度も「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」の地元を中心に新しい仲間を迎えることができました。創設の理念を共有し継承することを大切にして、多様な働き方を実践していきます。ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをさらにすすめます。

今年度は安心して住める地域社会の実現のため、厚生労働省のモデル事業の受託をめざします。ぐるーぷ藤が主体となって「地域支えあいセンター（よろしく・まるだい）」の開設を検討し、福祉のまちづくりをさらに進めます。

藤が岡の地にしっかりと根を張り各事業をさらに安定させるとともに、一番館運営により見えてきたニーズに対応するため「二番館」の建設準備をすすめます。

##### 2. 事業・活動部門

利用者の多様なニーズにできるだけ柔軟に対応し、本来事業、介護保険事業（訪問介護・通所介護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・複合型サービス）、障がい者総合支援事業（居宅介護・障がいグループホーム・相談支援事業）、訪問看護事業、高齢者住宅事業を連携させ、より充実した福祉の実現をめざします。

「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」においては、NPO版地域包括支援センターとしての位置づけで24時間体制の総合相談窓口をさらに充実させ、地域の安心を支える福祉拠点としての機能を果たします。レストラン「オハナ」では、食事の場だけでなく地域の交流の場・憩いの場としても多くの方にご利用いただけるような運営をめざします。

また今年度もまちづくり活動を行う団体等への支援をつづけます。

### 2-1 訪問介護（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

ご利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくために、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えます。本来事業では「ワンコイン」の子育て支援、保険外サービス、緊急時の対応、ご家族の介護負担軽減等様々なニーズに応え、藤らしい訪問介護サービスを行います。事業所加算Ⅱを取得した事業所として介護保険事業、障がい者総合支援事業では、ご利用者の自立に向けて困難なケースにも積極的に対応し、他職種との連携を図りながら多様な利用依頼に出来る限りこたえるように努力していきます。また昨年から開始した同行援護、行動援護については、必要な研修をサービス提供責任者が受講し、サービスを提供できる体制を整えます。毎月のさまざまな研修、会議等で対人援助の基本の確認を常に行います。また、日々その方らしい在宅生活を支えるためのきめ細かい介護力の向上に努めます。

### 2-2 通所介護（デイハウス菜の花）

ゲストの高齢化で筋力低下の方が多くなっています。基本的な運動機能を向上させる訓練やラジオ体操を随時行っていますが、今年は家族会の要望で歩行リハビリ等の回数を増やします。楽しみながらできる運動も行って下肢筋力維持・向上につとめます。多種多彩な作品づくりをゲスト自身が選択・実践することで喜びや充実感を得られています。少人数のデイの良さを生かし、個々の能力が十分に発揮できるプログラムを取り入れ支援していきます。

### 2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

ご利用者の「住み慣れた家で安心して暮らしたい」という思いを大切に、介護保険はもちろん地域資源も活用し本当に必要な支援は何かを考えてケアマネジメントを行っていきます。

介護保険改正、地域包括ケアシステムなどケアマネジャーの専門性がますます問われています。毎月の研修を通してアセスメント、モニタリング、地域連携能力向上を図るための専門的な知識や技術の習得を積極的に心がけていきます。

増加する独居や認知高齢者に対しては地域の包括支援センターや民生委員の方々との連携を密にして、社会で孤立しないように支援していきます。

#### 2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

「通い・泊り・訪問」の三位一体のサービスでご利用者が安心して充実した毎日を送れるように支援します。十人十色のご利用者の個性を大切にした対応ができるようにスタッフはさらに研修を重ね介護力の向上に努めます。週2回のおでかけデイはご利用者の「行きたい」「見たい」の意欲が湧き出るような新たな場所の情報収集をして安全でアクティブな外出ができるようにします。

地域とご利用者の交流の機会として近隣の方も参加できるミニコンサートやお祭りを開催し、入口に掲示板を設置し福祉の情報やイベントを発信して身近に感じていただける環境を作り、引きつづき「大鋸の福祉の駆け込み寺」として地域にさらに根をはっていきます。

第2回家族会を開きご家族の気持ちに寄り添い、つながりをより一層深めていきます。

#### 2-5 複合型サービス（ぐるーぷ藤しがらきの湯）

在宅で安心して暮らし続けるため、看護師、介護士が協働でご利用者、ご家族を支援します。藤沢市初の複合型サービスとして小規模多機能型居宅介護や訪問看護、医療機関との連携を積極的に行います。また、複合型サービスという制度が広く周知されるよう、外に向けての活動も行っています。

自治会、ボランティアの協力を得て地域との交流を深め、ご利用者が生活を楽しんでいただけるような環境づくりに努めます。また医療依存度が高くこれまでは通いやショートステイを利用できなかった方を受け入れることで、ご家族の介護負担の軽減に努めます。

ご利用者それぞれにあった支援をするために経験を積んだスタッフが、胃ろう喀痰研修も含め様々な研修を重ねスキルアップをめざします。

#### 2-6 訪問看護（訪問看護ぐるーぷ藤）

住み慣れた家で安心して暮らしたいというご利用者の思いを大切にし、その方らしい在宅生活が送れるように支援します。予防的看護からターミナルケアまで総合的かつ継続的に対応し、ご利用者とご家族に沿った看護を提供すると共に医師の指示による医療処置を確実に行っていきます。在宅ケアは主治医やケアマネジャー、ヘルパー等異なる多職種とのチームケアであると捉え、互いの連携を密にはかり適切なケアを行います。ご家族に対しても心身両面からの援助が大切と考え、より良い看護の方法や相談に応じたり、また必要に応じて24時間体制の緊急時対応をとっています。

複合型サービスにおいても、医療的処置のある方だけでなくリハビリや精神的看護にも努め訪問も行います。



一番館にお住まいの方や働くスタッフの健康相談等にも気軽に応じ、安心を提供していきます。

## 2-7 障がいグループホーム（藤が岡の家・本藤沢の家）

### ◇藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、世話人を中心として日常生活をサポートするとともに、看護師始め他のスタッフの暖かい声かけや見守りを通して安心の暮らしを提供します。日常生活の中で困ったこと等相談支援を行うことで、病状の変化に機敏に対応しそれぞれの生活の質の向上を支援していきます。

### ◇本藤沢の家

民間のアパートを借り上げ地域での生活により近い形で支援を受けながら安心して暮らせるグループホームをめざしてメンバーと共にさまざまな活動をしていきます。就労先、作業所、デイケア等と連携しながら日常生活能力を高め、自分らしい生活ができるように地域の方たちの協力を得ながら自立支援型グループホームならではの支援をめざしていきます。

## 2-8 障がい相談支援事業（計画サポートぐるーぷ藤）

障がいがある方の自立した生活を支え、その抱える問題解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントを行います。

法人内に精神障がいのグループホームを持つという特色を生かし、主として精神障がい者のサポートを行っていきます。さまざまなサービスや地域資源を連動させ、また法人内の他部門との連携を図りながらその方の自己決定を尊重し、個別性の高い自立支援を行っていきます。また、今後の需要の高まりが予測されるので相談支援員の増員を図ります。

## 2-9 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

「終の棲家」としておもてなしの心を大切にし、お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただけるよう努めます。看護師による個別健康相談や主治医との連携を密に図り、介護保険と一番館サービスを利用し個々に合わせたさまざまなニーズに対応します。皆様の高齢化にともなって介護度が高くなっていく中、穏やかな日常生活が送れるよう支援していきます。

地域社会とのつながりを意識し、積極的に自治会行事などに参加して季節感を肌で感じていただくように努めます。また、年間行事を組み一年を通して楽しみを提供し、それぞれ皆様が今できることを考え活かして過ごせるよう支えていきます。運営懇談会やご家族との対話を多く持ち、不安や疑問に答えながら精神的なサポートも行っていきます。

計画的に防災訓練や非常物品の確認・管理を行い、急な災害時にいつでも対応できるようにスタッフの防災意識をさらに高めていきます。

#### 2-10 厨房及びレストラン（オハナ）

厨房では管理栄養士・調理師を配置し、一番館にお住まいの方やしがらきの湯を利用されている方のさまざまな食事形態や状況の変化に迅速に対応していきます。また安全で美味しい食事を提供できるよう研修を随時行っていきます。

レストラン「オハナ」は、施設のシンボルとしてくつろいでいただける雰囲気づくりに努め、これからも地域の方の交流の場・憩いの場をめざします。

14年度も引き続きグループホーム本藤沢の家の夕食作りを行います。世代の違うメンバーの誰もが美味しく食べられる献立作りをします。

#### 2-11 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャーが常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療に関するあらゆる相談に応じます。長年地域においてさまざまな支援を続けてきた経験を生かし、緊急のSOSに24時間対応のNPO版地域包括支援センターの役割を担います。必要に応じて弁護士・民生委員・地域包括支援センター・地域支えあいセンター等に橋渡しをします。

#### 2-12 地域支えあいセンター（よろしく・まるだい）

2015年の介護保険改正に向けて、孤独になりがちな高齢者が気楽に立ち寄れる居場所を提供し、元気な高齢者同士の互助社会の形成の拠点とします。また子どもや障がい者を含め近隣に住まう人々の集いの場としても機能できるよう工夫していきます。

コーディネーターを配置し包括支援センターや地区社協・民生委員・自治会とも協力し緩やかな連携を行います。そこに集う人々のニーズを把握し、様々なサービスに繋げると共に自立した生活の見守り支援も行います。

### **3. 管理部門**

ぐるーぷ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち効率的に業務を遂行できるように努めます。システム強化を図り、パソコンに関するトラブル等に速やかに対応し円滑な業務遂行をめざします。

予算の執行にあたっては、すべての無駄を省き経費節減に努めます。火災・震災時の安全確保のため、防災委員会を中心として備蓄品の管理及び消防計画に基づき年2回防災訓練を行い、消防設備の点検も強化します。

また、労働安全衛生法に基づき安全衛生委員会を設置し事業所の職場環境お

よび会員の健康保持に努めます。

### 3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして皆がいきいきと働ける多様な職場づくりをめざし自己実現の場をつくりまします。日頃接することの少ない他部門のメンバーとも親睦を深められる交流会の開催や、心とからだの健康相談を継続するなどさらに福利厚生の充実に努めます。

### 3-2 広報活動

地域に定着してきた広報誌「花どけい」はまちづくりの情報発信の媒体としてご利用者や見学者に資料として提供するなどさらに有効活用していきます。各部門のパンフレットは活動に合わせ改定していきます。またホームページには、藤の活動をタイムリーに紹介し更に内容の充実をはかります。

テレビや雑誌の取材には丁寧に対応します。

## 4. 研修プロジェクト

ご利用する方のニーズを的確に把握し柔軟に対応するためには、メンバー一人ひとりに高度なスキルが要求されます。また日々の業務の中で各メンバーが目標に向かって自己実現を図ることが藤全体の介護の質を高めていくと考え、今年度も『理念と意思の共有』『スキルアップ』『新しい介護』を学びの3本柱として研修プロジェクトを引き続き設置します。

メンバー及び地域社会のニーズに合わせ介護技術や幅広い知識の習得を目的に研修計画を策定するとともに、一人ひとりの経験やスキルに合わせた体系的・継続的な研修や部門ごとの専門的な研修を組み立てていきます。

今年度はそれらの研修の総合的把握の為、個人別の統一研修シートを作成します。研修に積極的に参加したメンバーを評価していくシステムは、改善し継続していきます。

## 5. 二番館建設委員会

“福祉のまちづくり”をめざし一番館と同様に地域の福祉拠点として、皆と繋がりながら自分らしく生きいきと暮らせる場や、多様なメンバーがお互いに助け合って働く場を作り出すことを目的に二番館建設に着手します。

又、ぐるーぷ藤の中期計画の達成と地域のニーズに応えるため、NPOらしい運営による二番館建設の委員会を設置します。サービス付き高齢者向け住宅・小規模多機能型居宅介護（サテライト）・地域の人も使える会議室等、地域の中で市民事業の担うべき役割と、一番館運営で見えてきた課題を解決するた

め二番館の年度内着工に向け取り組みます。

## 6. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援していきます。また藤沢市の諸団体の委員、市民協常務理事、内閣府の介護プロフェッショナルキャリア段位制度のレベル認定委員等での活動を通じて介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った発信をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。

また被災地支援については現地で必要とされる支援を継続し、活動の様子を藤のホームページで順次紹介していきます。

## Ⅱ. 事業内容

### 1) 特定非営利活動に係る事業

#### (1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

##### 1. 通常事業

- ①内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：40名
- ⑤対 象 者：50名
- ⑥事 業 費：¥4,646,494

#### (2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

##### 1. 介護講座等

- ①内 容：介護講座
- ②日 時：7月、9月、11月
- ③場 所：ぐるーぷ藤一番館・藤が岡
- ④従事者人員：7名
- ⑤対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥研 修 費：¥150,000

#### (3) 介護保険法にもとづく事業

##### 1. 訪問介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：60名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥15,896,417

## 2. 通所介護事業

- ①内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：10名
- ⑤対 象 者：30名
- ⑥事 業 費：¥14,013,080

## 3. 居宅介護支援事業

- ①内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：7名
- ⑤対 象 者：120名
- ⑥事 業 費：¥13,216,874

## 4. 小規模多機能型居宅介護事業

- ①内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：30名
- ⑤対 象 者：25名
- ⑥事 業 費：¥55,456,916

## 5. 複合型サービス

- ①内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」「訪問看護」を組み合わせたサービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：40名
- ⑤対 象 者：25名
- ⑥事 業 費：¥55,549,667

## 6. 訪問看護事業

- ①内 容：介護保険・医療保険対象者への訪問看護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：5名
- ⑤対 象 者：40名
- ⑥事 業 費：¥12,132,146

## (4) 高齢者・障がい者等に対する居宅介護支援および施設サービス事業

### 1. 居宅介護サービス事業

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者への訪問介護サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：60名
- ⑤対 象 者：80名
- ⑥事 業 費：¥17,781,927

### 2. 障がい相談支援事業

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者への相談支援サービスの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：4名
- ⑤対 象 者：20名
- ⑥事 業 費：¥1,128,065

### 3. 障がいグループホーム

(藤が岡の家)

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホーム・ケアホームの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：4名
- ⑤対 象 者：6名
- ⑥事 業 費：¥11,340,779

(本藤沢の家)

- ①内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホーム・ケアホームの提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：8名
- ⑤対 象 者：11名
- ⑥事 業 費：¥13,818,989

4. 高齢者住宅

- ①内 容：高齢者に終の棲家としての住宅および生活支援サービス提供
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：30名
- ⑤対 象 者：21名
- ⑥事 業 費：¥63,981,926

(5) 安心して住める地域社会の実現に貢献する事業

1. 地域支えあいセンター（よろしく・まるだい）

- ①内 容：孤独になりがちな高齢者が気楽に立ち寄れる居場所、子どもや障がい者を含め近隣に住まう人々の集いの場の提供
- ②日 時：2014年6月より
- ③場 所：藤沢市藤沢地区
- ④従事者人員：15名
- ⑤対 象 者：藤沢地区在住の方
- ⑥事 業 費：¥9,120,324

(6) 厨房・レストラン事業

1. 厨房・レストラン事業

- ①内 容：ぐるーぷ藤利用者への食事提供  
一番館で働くスタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域
- ④従事者人員：15名
- ⑤対 象 者：多数



⑥事業費：¥31,790,501

(7) まちづくり活動を行う団体等の支援事業

1. まちづくり対策費

- ①内容 容：まちづくり活動を行うNPO法人、障がい者団体等や被災地支援活動を行う団体等に対する寄附事業
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市域、他被災地等
- ④従事者人員：5名
- ⑤対象者：10～15団体
- ⑥事業費：¥500,000

(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 総合相談センター

- ①内容 容：福祉・医療に関する相談業務
- ②日 時：通年
- ③場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④従事者人員：10名
- ⑤対象者：多数

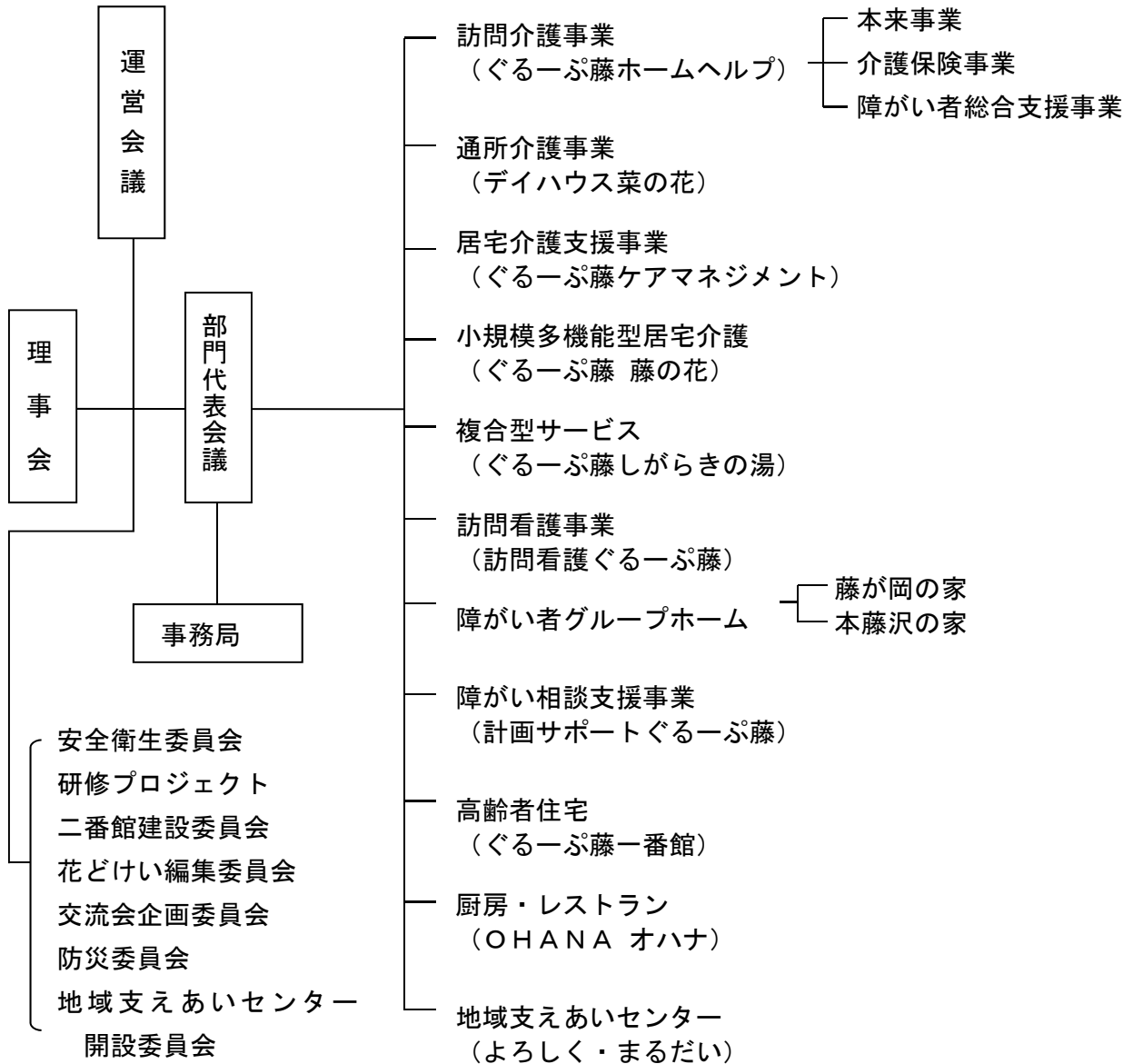
2014年度 活動予算書(特定非営利活動に係る事業)  
2014年4月1日から2015年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	(税込、単位:円)
I 経常収益		
1 受取入金		
正会員入会金	10,000	
さわ入会金	20,000	30,000
2 受取会費		
正会員年会費	5,000	
さわ会費	100,000	
賛助会費	15,000	120,000
3 受取寄附金		1,950,000
4 受取助成金等		
助成金補助金収入		5,568,000
5 事業収益		
事業収入		331,189,207
6 雑収入		9,671,600
経常収益計		348,528,807
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	205,719,450	
有償ボランティア	1,647,630	
賞与	10,000,000	
通勤交通費	3,269,560	
法定福利費	21,460,000	
厚生費	504,000	
人件費計	242,600,640	
(2) その他経費		
什器備品費	1,000,000	
食器材費	13,424,768	
印刷製本費	371,000	
会議費	55,728	
事業費交通費	856,000	
燃料費	990,000	
通信費	1,076,864	
新聞図書費	108,198	
消耗品費	5,981,760	
修繕費	542,000	
水道光熱費	7,637,280	
水賃借料	6,075,919	
保険料	277,650	
諸会費	41,600	
研修費	483,400	
支払手数料	282,500	
まちづくり対策費	500,000	
被災地支援費	500,000	
管理諸費	56,155	
租税公課	2,969,000	
減価償却費	16,577,688	
家賃支出	9,820,800	
支払利息	9,498,255	
雑費	772,000	
その他経費計	79,898,565	
事業費計		322,499,205
2 管理費		
(1) 給料手当等	2,799,170	
有償ボランティア	374,400	
通勤交通費	762,240	
福利厚生費	2,321,560	
人件費計	6,257,370	
(2) その他経費		
印刷製本費	898,000	
会議費	776,800	
旅費交通費	444,400	
燃料費	30,000	
通信費	620,352	
消耗品費	740,010	
修繕費	207,000	
水道光熱費	846,720	
水賃借料	2,718,439	
研修費	1,180,000	
交際費	240,000	
新聞図書費	63,990	
保険料	4,493,186	
諸会費	480,000	
租税公課	10,000	
支払手数料	372,000	
管理諸費	3,017,915	
一番館準備費	1,000,000	
雑費	326,000	
その他経費計	18,464,812	
管理費計		24,722,182
経常費用計		347,221,387
当期正味財産増減額		1,307,420
前期繰越正味財産額		148,805,517
次期繰越正味財産額		150,112,937

# 資料

## 2014年度ぐるーぷ藤組織図



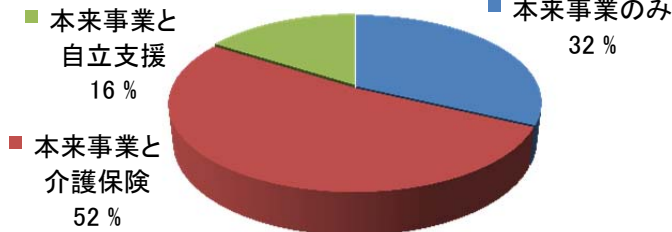
### ◆メンバー構成◆ 2014. 3. 31 現在

20代	2名	1.6%
30代	9名	7.1%
40代	41名	32.3%
50代	29名	22.8%
60代	37名	29.1%
70代	8名	6.3%
80代	1名	0.8%
計	127名	

# ご利用者 分布

(2014年3月)

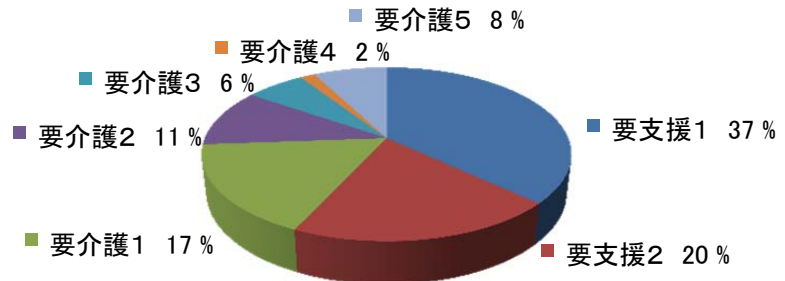
## 訪問介護(本来事業)



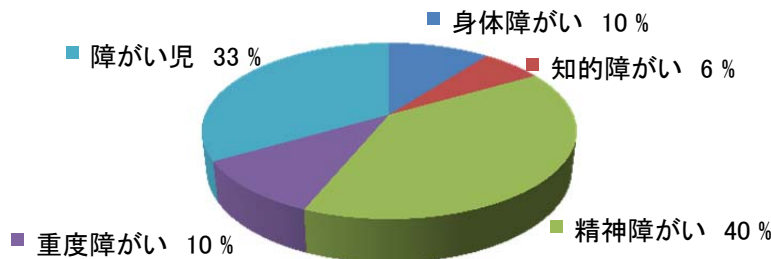
年齢	%
20歳以下	2%
30歳代	8%
40歳代	4%
50歳代	6%
60歳代	16%
70歳代	18%
80歳代	32%
90歳代	14%

## 訪問介護(介護保険)

年齢	%
40歳代	6%
50歳代	5%
60歳代	8%
70歳代	25%
80歳代	40%
90歳代	12%



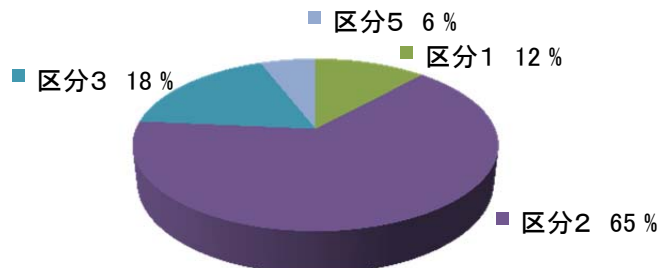
## 訪問介護(障がい者総合支援)



年齢	%
児童	10%
10歳代	23%
20歳代	4%
30歳代	10%
40歳代	29%
50歳代	6%
60歳代	13%
70歳代	4%

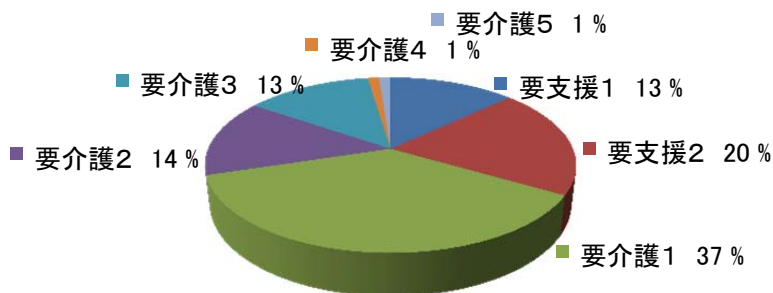
## 障がいグループホーム

年齢	%
20歳代	18%
30歳代	18%
40歳代	29%
50歳代	35%

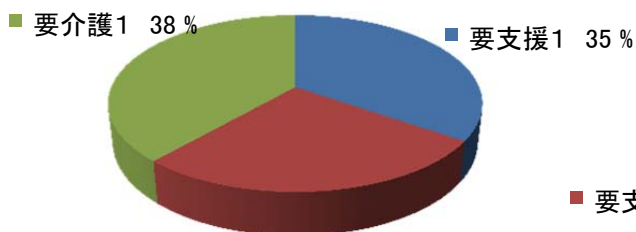


居宅介護支援

年齢	%
40歳代	1%
50歳代	1%
60歳代	5%
70歳代	26%
80歳代	50%
90歳代	17%



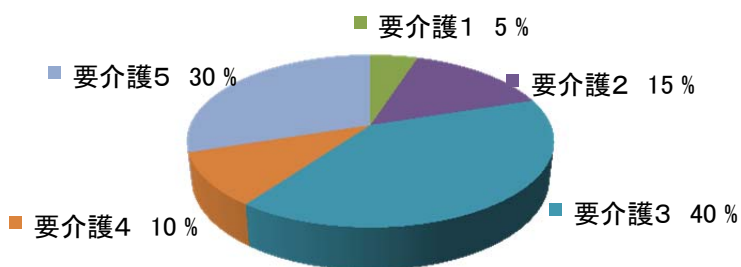
通所介護(デイハウス菜の花)



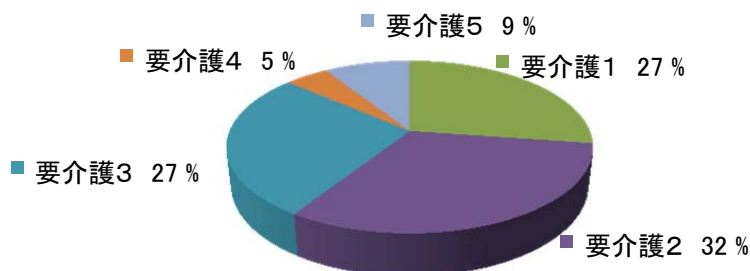
年齢	%
60歳代	0%
70歳代	4%
80歳代	65%
90歳代	31%

複合型サービス(しがらきの湯)

年齢	%
60歳代	10%
70歳代	0%
80歳代	30%
90歳代	60%



小規模多機能型居宅介護(藤の花)



年齢	%
60歳代	5%
70歳代	18%
80歳代	36%
90歳代	41%

2013年度 全体研修・部門別研修

		月 日	名 称
全体研修	内部研修	通年	新入会研修
		6月22日	藤・すみれ共催安部白道氏「老い支度」
		7月13日	石けん講習会
		8月10日	法令遵守
		8月17日	竹内先生の介護講座
		9月2日～10月18日(6回)	スキルアップ研修
		9月21日	公開医療講座クローバークリニック門倉Dr.「褥瘡予防」
		10月12日	個人情報・プライバシーについて
		12月14日	感染症予防について
		11月18日～12月4日(5回)	理事長と語る会
		1月11日	就業規則について
		2月1日	救命救急講習
		2月24・25・26日	介護福祉士実技試験受験講習
		3月6日	管理者学習会
	外部研修	4月25日	小規模多機能型居宅介護のケアマネジメント
		5月24日	第1回福祉居住研修会
		5月24日	障害者総合支援法の概要と地域での課題
		6月12日	藤沢労働基準監督署「社会福祉施設における労働災害防止等研修会」
		7月7日～8日	市民協北海道研修会
		7月23日	精神保健福祉公開講座
		7月26日	サービス付高齢者向け住宅
		8月22日～23日	防火防災管理者講習会
		9月30日	障害者総合支援法・障がい福祉の動向
		10月13～20日	トップリーダー海外研修「フランス」
		10月23日	感染症対策ステップアップセミナー
		11月14日～15日	市民協コーディネーター研修
11月16日	地域がん診療連携拠点病院研修会「在宅ケアについて」		

		月 日	名 称
部門別研修	ぐるーぷ藤ホームヘルプ	4月～3月(12回)	ヘルパー会議研修「総合支援法、介護保険、本来事業のケア内容の違いについて」他
		11月27日	自閉症、発達障害の特性を学ぶ
		11月30日	はじめての自閉症、発達障害
		1月18日	レビー小体型認知症
		3月17.22.23日	同行援護従事者養成研修(一般過程)
		3月29・30日	同行援護従事者研修(応用課程)
	ぐるーぷ藤の花	4月～3月(11回)	スタッフ会議研修「事故発生またはその発生予防またはその発生の防止」他
		4月28日	小規模多機能型居宅介護のケアマネジメント
		5月7・8日	防火管理者研修
		10月9・11日	ノロウイルス等感染症研修会
		1月18日	「認知症高齢者の介護を考える」レビー小体型認知症の理解
		1月27日	小規模多機能型居宅介護のリスクマネジメント
	しがらき番館の湯	4月～3月(11回)	スタッフ会議研修「感染発生の事例検討と予防及びまん延の防止について」他
		7月18日	地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修
		12月8日	在宅・施設で上手に胃ろうと付き合うために
	菜の花	4月～3月(11回)	スタッフ会議研修「事故の発生予防またはその発生の防止」他
		10月9日	ノロウイルス等感染症について蔓延防止対策
	ぐるーぷ藤ケアマネジメント	4月～3月(12回)	ミーティング研修「医療連携について」他
		10月15日	口腔ケア講習会
		10月24日	チームで在宅医療を支えるために
		12月10日	障害者総合支援法・障害福祉の動向
		12月17日	嚥下障害のメカニズム
		1月17日	介護支援専門員新任者研修
		2月18日	最強のアセスメント力養成講座
		2月18日	平成25年度介護支援専門員資質向上研修会
		2月18日	今後介護支援専門員に求められる他職種連携・協働
		3月17日	介護支援専門員に求められる他業種連携、事例検討
	訪問看護 ぐるーぷ藤	4月～3月(12回)	訪問看護ミーティング研修「感染」他
		6月22日	褥瘡ケア
		6月22日	在宅医と連携
		6月22日	地域の在宅医とつくるこれからの訪問看護
		9月6日	褥瘡ケア
		10月18日	在宅医療研究会
10月23日		チーム医療で在宅の看取り	
10月23日		感染症対策ステップアップセミナー	
11月15日		感染症	
12月8日		胃瘻	
2月28日		結核	

		月 日	名 称
部門別研修	藤が岡の家・本藤沢の家	4月～3月(7回)	家ミーティング研修「総合支援法について」他
		9月13日	湘南東部圏域障害者グループホーム等職員研修「より良い支援を目指して」
		11月14日	湘南東部圏域障害者グループホーム等職員研修「虐待について考える」
		12月10日	障害者総合支援法・障がい福祉の動向
		12月10日	発達障害の理解と支援について
		1月17日	グループホーム等管理者・サービス管理責任者研修
		2月2日	藤沢市心のバリアフリー講習会「精神障害を理解しよう」
		2月14日	ストレンクス視点を通じたコミュニケーションスキルを学ぶ
		3月14日	湘南東部圏域障害者グループホーム等職員研修「ファシリテーション・ファシリテーターとは」
	ぐ計画サービスサポート	7月29日～9月11日(7回)	第1回相談支援従事者 初任者研修
		7月29日～11月29日 (7回)	第2回相談支援従事者 初任者研修
		2月20日	計画相談養成研修
	厨房	4月～3月(5回)	スタッフ会議研修「ソフト食について」他
		5月30日・6月17日	食品衛生責任者講習会
		1月24日	春メニューの提案
	事務	4月～3月(6回)	事務職会議研修「パソコン業務の確認」他
		7月7日～8日	新しい介護、福祉政策の実現に向けて
		7月29日	新寄付税制
		11月14日～15日	市民参加による生活支援サービス推進コーディネーター養成研修
		2月18日	介舟ファミリー介護セミナー



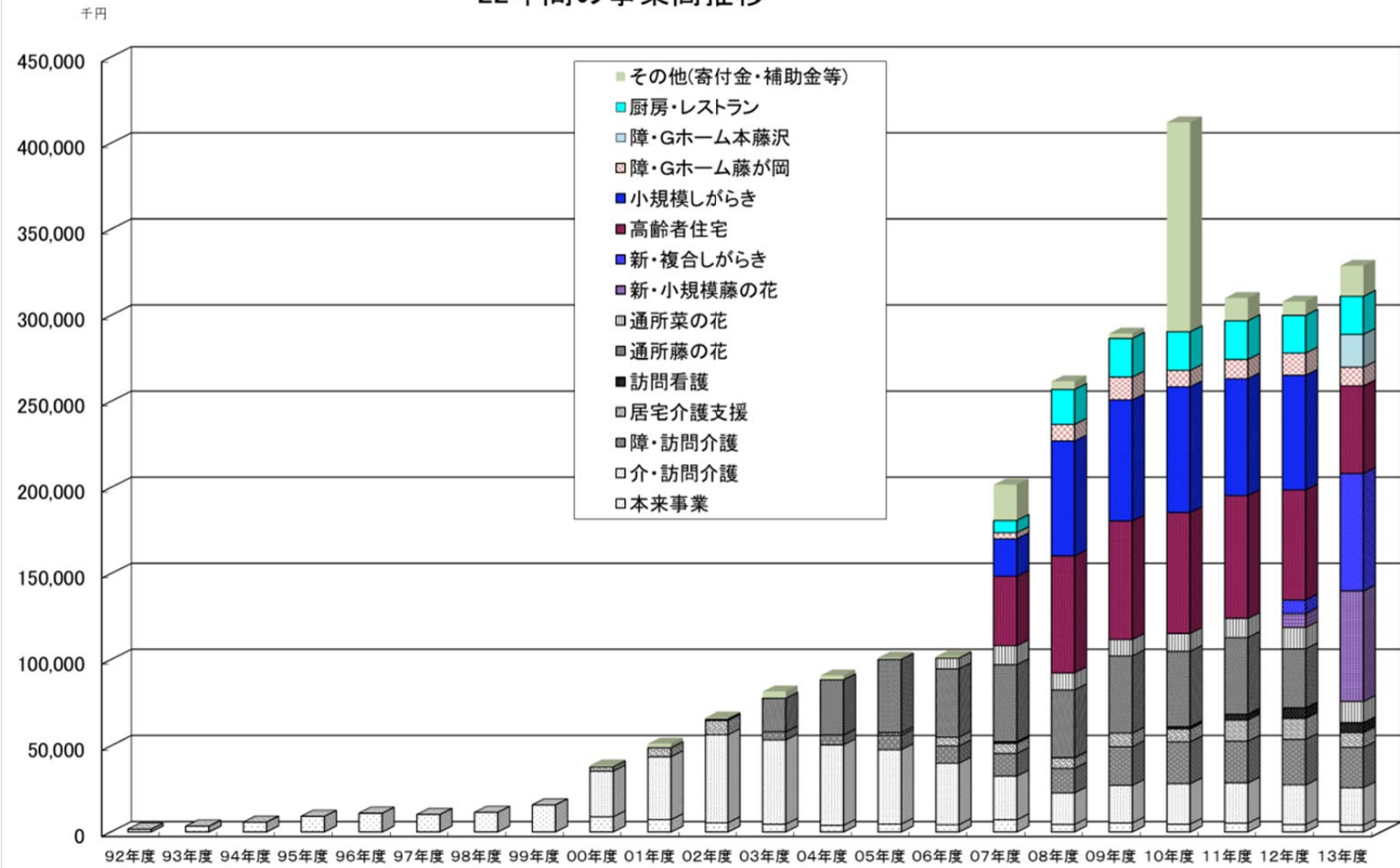
# 年間活動一覽

2013年4月～2014年3月

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
4月	1	訪問看護ミーティング	26	小規模多機能型居宅介護のケアマネジメント	11	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	5	第1回運営会議			11	藤沢市市民活動推進委員会
	8	ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング			16	市民福祉団体全国協議会(市民協)政策委員会・常務理事会
	10	第1回部門代表会議			20	NPO法人昂の会総会
	10	花どけいNo.69発行			21	コンフォール藤沢自治会総会
	13	第1回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議			20	～21 被災地訪問バスツアー
	13	藤が岡の家旅立ちの会			22	慶應義塾大学SFC金子郁容ゼミ 講師
	15	税理士打合せ				
	17	臨時部門代表会議				
	18	しがらきの湯リーダー会議				
	22	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	24	三部門合同ミーティング、厨房会議				
	25	ケアマネミーティング				
	25	第1回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	26	交流会企画委員会				
	30	厨房ミーティング				
5月	2	藤の花リーダー会議	24	障害者総合支援法の概要と地域での課題	9	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	3	第2回運営会議	30	特定給食施設等従事者講習会	9	藤沢市市民活動推進委員会
	6	ホームヘルプミーティング			12	～13 新潟NPO協会10周年フォーラム
	7	2012年度監査、訪問看護ミーティング			14	民間介護事業推進委員会
	8	第2回部門代表会議			21	江戸川人生大学 講師
	11	第2回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議			21	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	13	～15 湘洋中学職場体験(4名)			25	～26 被災地訪問(未希の家)
	15	しがらきの湯リーダー会議			30	民間介護事業推進委員会
	16	事務局会議				
	19	第9回(通算第21回)通常総会				
	22	藤の花リーダー会議、三部門合同ミーティング				
	25	藤の花家族会				
	27	税理士打合せ、研修プロジェクト				
	28	藤沢労基署安全衛生関係調査				
	29	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	30	ケアマネミーティング				
	31	第3回運営会議				
6月	3	ホームヘルプミーティング	12	社会福祉施設における労働災害防止等研修会	11	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	3	訪問看護ミーティング	13	食品衛生講習会	12	厚労省労働局長と面談
	3	厨房ミーティング	18	有料老人ホーム運営講習会	13	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	5	第3回部門代表会議	22	地域の在宅医とつくるこれからの訪問看護	15	市民協総会・シンポジウム
	6	藤の花リーダー会議	22	看護の力でここまでできる褥瘡ケア	15	～16 被災地訪問(未希の家)
	8	第3回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議	22	講演会「古い支度 生き方・死に方」	27	藤沢市市民活動推進委員会
	13	防災委員会			28	湘南平塚看護専門学校戴帽式
	15	一番館避難訓練				
	19	しがらきの湯リーダー会議				
	19	厨房会議				
	20	第2回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	24	第1回理事会				
	26	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	26	三部門合同ミーティング				
	27	ケアマネミーティング				
	28	税理士打合せ				
	29	第1回交流会「懐石料理ランチ会」				
7月	1	訪問看護ミーティング	7	～8 市民協北海道研修会	9	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	2	ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング	13	学習会「せっけんをもっと知ろう」	11	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	4	藤の花リーダー会議	16	平成25年度地域密着型サービス事業者等集団講習会	16	神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
	5	第4回運営会議	23	精神保健福祉公開講座	16	社会福祉法人「京悠会」訪問
	9	実地指導(訪問介護・居宅介護支援・訪問看護)	26	サービス付高齢者向け住宅	18	神奈川シルバーサービス振興会体験発表 「複合型サービスについて」
	10	第4回部門代表会議	29	NPO法改正&新寄付税制セミナー	18	「地域密着型サービス外部評価フォローアップ研修」講師
	10	花どけいNo.70発行	29	～9/11(全7回) 神奈川県相談支援従事者初任者研修	18	市民協常務理事会・厚労省老健局振興課朝川課長と懇談会
	12	実地指導(菜の花)	29	～11/29(全7回) 神奈川県相談支援従事者初任者研修	20	～21被災地訪問(未希の家)
	13	第4回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議	29	～9/26(全5回) 介護支援専門員専門研修	23	ケアマネサロン
	17	しがらきの湯リーダー会議			24	藤沢市訪問看護ステーション連絡会
	18	事務局会議			26	市民協老健事業第1回委員会
	20	一番館第6回運営懇談会			26	民間介護事業推進委員会
	23	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	24	三部門合同ミーティング				
	25	ケアマネミーティング				
	29	税理士打合せ				
8月	1	藤の花リーダー会議	17	第21回竹内先生介護講座「ボディメカニクスを応用した介護術」	2	クローバーデイケアセンター内覧会
	2	第5回運営会議	21	防災管理者講習	8	市民自治推進課と面談
	5	ホームヘルプミーティング、厨房ミーティング	22	防災管理者講習	10	厚労省老健局振興課朝川課長と面談
	7	第5回部門代表会議			19	厚労省老健局振興課朝川課長と面談
	10	第5回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議			20	民間介護事業推進委員会
	12	訪問看護ミーティング			22	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	12	～17 東海大学生研修(2名)			22	藤沢市市民活動推進委員会
	14	認定NPOに関する実地調査(23)			22	藤沢市せっけんまつり
	15	第3回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議			23	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	21	しがらきの湯リーダー会議			24	コンフォール藤沢自治会夏まつり
	21	厨房会議			24	～25 被災地訪問(未希の家)
	21	三部門合同ミーティング			26	市民自治推進課長と面談
	22	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング			27	民間介護事業推進委員会
	26	税理士打合せ				
	29	ケアマネミーティング				
	30	訪問看護ミーティング				
9月	2	厨房ミーティング	2	～10/18スキルアップ研修	3	民間介護事業推進委員会
	4	第2回理事会	9/2	訪問介護の基礎 共感的理解	9	民間介護事業推進委員会
	4	ホームヘルプミーティング	9/10	基本介護技術 歩行 車いす 移乗	10	藤沢市市民自治推進課と面談
	6	第6回運営会議	9/18	調理のコツ	11	市民協役員会・社会福祉協議会と懇談
	9	藤の花リーダー会議	9/26	基本介護技術 排泄 陰洗 清拭	11	リハビリケア「湘南かまくら」見学
	11	第6回部門代表会議	10/3	基本介護技術 着衣介助	12	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	12	実地指導(藤の花)	10/18	認知症について	17	神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
	14	第6回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議	6	褥瘡セミナー	19	市民協常務理事会・厚労省老健局振興課朝川課長と面談
	18	しがらきの湯リーダー会議	13	第1回湘南東部グループホーム等職員研修	20	民間介護事業推進委員会
	18	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング	21	公開医療講座「褥瘡予防」～私たちにできること～ 講師：クローバークリニック門倉先生	27	藤沢市介護保険課と話し合い
	19	事務局会議	30	障害者総合支援法・障害福祉の動向	28	～29 被災地訪問(未希の家)
	25	三部門合同ミーティング			29	ボランティアすむれ会議
	26	一番館夜間防災避難訓練				
	27	一番館夜間防災避難訓練				
	27	ケアマネミーティング				
	30	税理士打合せ				
	30	厨房ミーティング				

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
10月	4	第7回運営会議	9	ノロウイルス等感染症研修会	8	民間介護事業推進委員会
	7	ホームヘルプミーティング	10	ノロウイルス等感染症研修会	10	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	7	訪問看護ミーティング	11	ノロウイルス等感染症研修会	19	～20 被災地訪問（未希の家）
	9	第7回部門代表会議	13	～20 海外研修「フランス」	22	市民協打合せ・厚労省老健局振興課朝川課長と懇談
	10	花どけいNo.71発行	15	口腔ケア講習会	22	民間介護事業推進委員会
	12	第7回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議	18	第5回藤沢在宅医療研究会	28	藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会
	12	本藤沢の家避難訓練	23	藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会Bグループ研修 「チーム医療で在宅の看取り」	28	民間介護事業推進委員会
	16	厨房会議	23	神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会研修		
	16	しがらきの湯リーダー会議	23	感染症対策ステップアップセミナー		
	23	三部門合同ミーティング				
	24	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	24	第4回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	25	訪問看護ミーティング				
	25	ホームヘルプミーティング				
	30	厨房ミーティング				
	31	ケアマネミーティング				
	31	税理士打合せ				
11月	1	第8回運営会議	14	虐待について考える	8	市民協研究委員会・厚労省老健局振興課朝川課長と懇談
	6	第8回部門代表会議	14	市民協コーディネーター研修	13	民間介護事業推進委員会
	7	藤の花リーダー会議	15	市民協コーディネーター研修	14	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	9	第8回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議	16	地域がん診療連携拠点病院研修会「在宅ケアについて」	15	かながわ福祉大賞「福祉の未来を拓く先進事例発表会」
	10	しがらきの湯家族会	18	理事長と語る会	16	～17 被災地訪問（未希の家）
	14	藤が岡の家食事会	20	理事長と語る会	19	介護プロフェッショナル・キャリア段位制度レベル認定委員会
	16	菜の花家族会	28	理事長と語る会	21	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	20	しがらきの湯リーダー会議			22	東村山市「ゆずり葉」講演
	20	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング			25	市民協常務理事会・厚労省老健局振興課朝川課長と懇談
	21	事務局会議			25	神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
	24	第2回交流会「陶芸体験とレストラン”アマルフィ”」			26	民間介護事業推進委員会
	25	税理士打合せ				
	27	三部門合同ミーティング				
	28	ケアマネミーティング				
	29	厨房ミーティング				
12月	2	ホームヘルプミーティング	2	理事長と語る会	3	横浜国立大学講師
	5	有償ボランティア食事会	4	理事長と語る会	9	民間介護事業推進委員会
	5	藤の花リーダー会議	8	在宅・施設で上手に胃瘻とつき合うために	12	藤沢市個人情報保護制度運営審議会・委嘱式
	6	第9回運営会議	10	障害者総合支援法・障害福祉の動向	12	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	9	訪問看護ミーティング	10	発達障害の理解と支援について	17	藤沢市障害者総合支援協議会
	11	第9回部門代表会議	17	嚥下障害のメカニズム	21	～22 被災地訪問（未希の家）
	14	第9回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議				
	16	第3回理事会				
	18	男声合唱「ゴールデンノーツ」クリスマスコンサート				
	18	しがらきの湯リーダー会議				
	19	第5回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議				
	20	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	24	税理士打合せ				
	25	神奈川県より「認定非営利活動法人」認証				
	25	三部門合同ミーティング				
	26	ケアマネミーティング				
	27	厨房ミーティング				
1月	3	第10回運営会議	15	認知症サポーター養成講座	5	藤沢市賀詞交歓会
	7	ホームヘルプミーティング	17	グループホーム等管理者・サービス管理責任者研修	6	厚労省老健局振興課朝川課長と懇談
	6	藤の花リーダー会議	18	神奈川県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会フォーラム	9	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	7	訪問看護ミーティング	18	「認知症高齢者の介護を考える」レビー小体型認知症の理解	11	市民協「二代目リーダー養成塾」講師
	8	湘南平塚看護専門学校生実習受け入れ（10・15・17・20・24）			12	コンフォール藤沢自治会新春の集い
	8	第10回部門代表会議			14	民間介護事業推進委員会
	10	花どけいNo.72発行			18	藤沢ひまわり10周年記念式典
	11	第10回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議			23	藤沢市市民活動推進委員会
	11	第3回交流会「新年会」			24	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	15	しがらきの湯リーダー会議			28	介護プロフェッショナル・キャリア段位制度レベル認定委員会
	22	三部門合同ミーティング			29	指定障害福祉サービス事業者等説明会
	24	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング				
	24	研修プロジェクト				
	27	税理士打合せ				
	27	事務局会議				
	29	厨房ミーティング				
	30	ケアマネミーティング				
	31	第11回運営会議				
2月	1	特定相談支援事業「計画サポートぐるーぶ藤」開始	1	救命救急研修	4	市民協常務理事会
	3	ホームヘルプミーティング	2	藤沢市心のバリアフリー講習会「精神障害を理解しよう」	13	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	3	訪看ミーティング	6	介護支援専門員更新研修Ⅱ（2/6・19 3/3）	20	藤沢市市民活動推進委員会
	5	第11回部門代表会議	14	ストレングス視点を通じたコミュニケーションスキルを学ぶ	21	ナースケア事務所訪問
	12	税理士面談	18	平成25年度介護支援専門員資質向上研修会	27	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	13	藤の花リーダー会議	18	最強のアセスメント力養成講座		
	17	厨房会議	20	計画相談基礎研修		
	17	湘南平塚看護専門学校生実習受け入れ（19・21・24・26・28） 計25名	21	まさかの結核・やっばり結核		
	20	第6回藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議	23	市民協コーディネーター研修		
	21	しがらきの湯リーダー会議	24	～26 介護福祉士受験対策講座		
	21	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング	27	生活支援サービス提供者の役割と意義に関する研究フォーラム		
	24	厨房ミーティング				
	27	ケアマネミーティング				
	27	三部門合同ミーティング				
	27	有料ホーム実地調査				
	27	税理士打合せ				
	28	第12回運営会議				
3月	3	ホームヘルプミーティング	6	管理者学習会	1	小林内科医院開設祝
	3	訪看ミーティング	14	湘南東部グループホーム・ケアホーム等職員研修 「ファシリテーション、ファシリテーターとは」	10	介護プロフェッショナル・キャリア段位制度レベル認定委員会
	3	藤の花リーダー会議	17	同行援護従業者養成研修・一般課程（22・23）	13	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
	5	第12回部門代表会議	17	介護支援専門員に求められる他業種連携、事例検討	13	市民協役員懇談
	8	第12回運営報告会・ヘルパー会議・スタッフ会議			15	片瀬地区福祉ボランティア「しおさい」講師 「どうなる介護保険」
	17	事務局会議			15	社会福祉法人藤沢いきいき福祉会20周年記念式典
	20	藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング			16	ボランティアすみれ会議
	21	しがらきの湯リーダー会議			18	藤沢市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会
	24	税理士打合せ			21	藤沢市市民活動推進委員会
	24	第4回理事会			22	NPO法人たすけあいスプーン講師「虐待について」
	27	ケアマネミーティング			23	地域ユニット伊勢原 講師 「今後の介護保険改定の行方と地域支援事業について」
	27	三部門合同ミーティング			25	民間介護事業推進委員会
	28	税理士打合せ			28	認定にかかる説明会

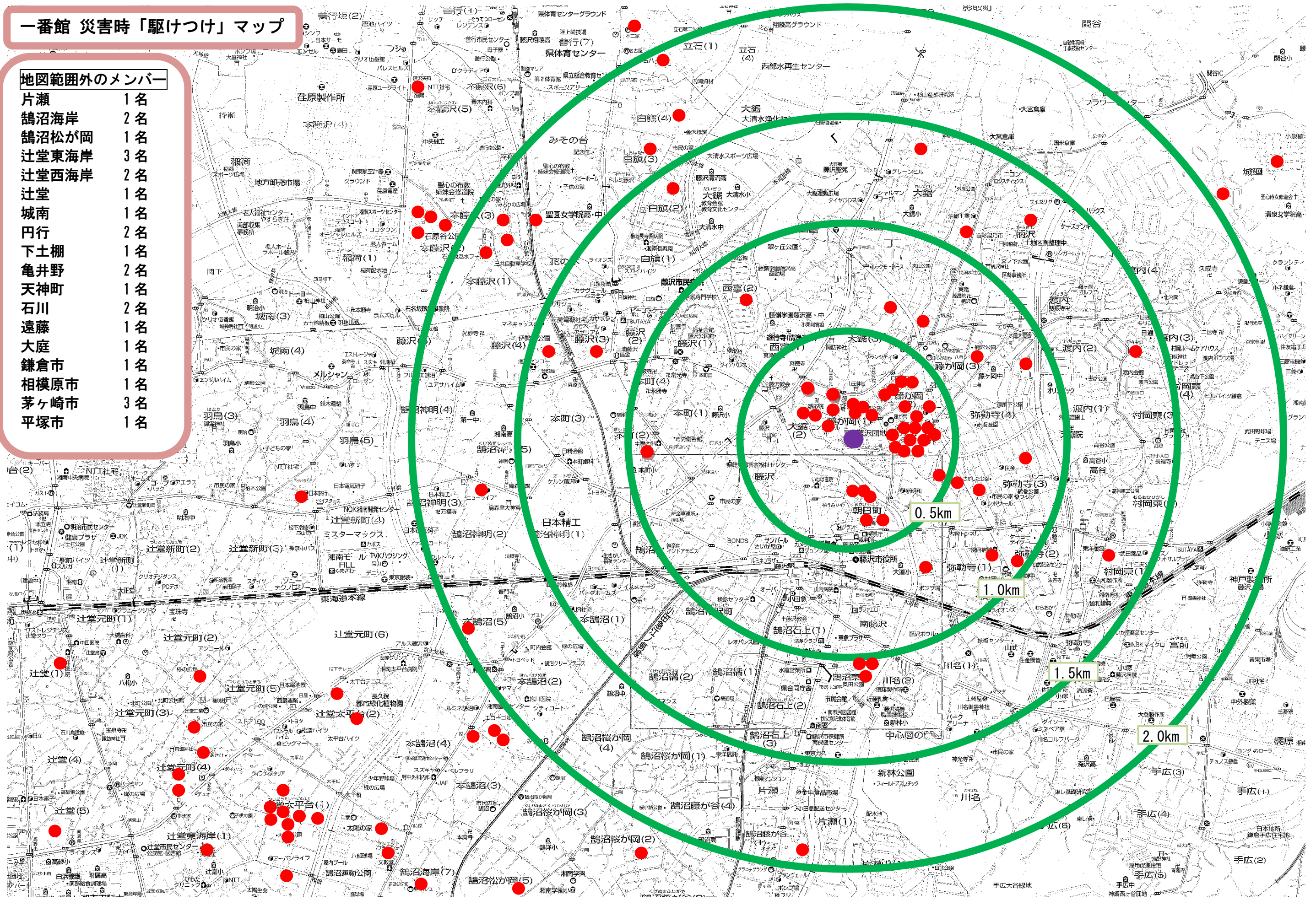
## 22年間の事業高推移



# 一番館 災害時「駆けつけ」マップ

## 地図範囲外のメンバー

- 片瀬 1名
- 鵜沼海岸 2名
- 鵜沼松が岡 1名
- 辻堂東海岸 3名
- 辻堂西海岸 2名
- 辻堂 1名
- 城南 1名
- 円行 2名
- 下土棚 1名
- 亀井野 2名
- 天神町 1名
- 石川 2名
- 遠藤 1名
- 大庭 1名
- 鎌倉市 1名
- 相模原市 1名
- 茅ヶ崎市 3名
- 平塚市 1名



## 提 案 者

理 事 長	鷺尾 公子
常務理事	吉村 さえ子
理 事	垣見 凌子
理 事	國原 浩
理 事	黒川 栄
理 事	小林 純二郎
理 事	佐藤 律子
理 事	富田 信美
理 事	松岡 薫
監 事	小野 淑子
監 事	藤澤 抱一



歳をとっても病気になっても

障がいがあっても

いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい

第10回（通算22回）通常総会議案書

発行日 2014年5月25日

発行者 認定NPO法人ぐるーぷ藤 理事会

住 所 藤沢市藤が岡1-4-2

電 話 0466-24-3100